

鳥類の保護

397

417



始



大正十一年十二月

鳥類の保護

徳島縣警察部保安課

397-417

緒言

野生ノ鳥類ハ各特異ノ習性ニ依リ人生トノ間ニハ有形無形ニ密接ナル關係ヲ有シ特ニ鳥類ト農林業トノ關係ニ至ツテハ相離ルマカラザルモノナリ。即チ野生鳥類ガ有害昆虫ヲ驅除シ農林業者ヲ裨益スル事實ニ莫大ナリ。

然ルニ未開時代ニ於テハ鳥類ノ保護ノ必要ヲ認メザリシモ、近時文明的施設ニシテ野生鳥類ノ棲息ヲ妨ゲザルナク山間僻地ト雖モ鳥類ノ減少著シク殊ニ有益ナル各種鳥類ハ次第ニ其ノ數ヲ減シ一般ニ昆虫其他有害小動物ノ増加トナリ農林業ニ及ホス被害モ亦大ナリ。之レ蓋シ鳥類ノ減少ハ國土ノ開拓、狩獵者ノ濫獲國民ノ動物愛護思想ノ缺乏及我國ノ森林經營上潤葉樹林ノ減少等ハ大ナル原因ナリ。而シテ斯ル傾向ガ著レバナル程野生鳥類ノ保護蕃殖ヲ計リ益々鳥類ノ天賦ノ特性ヲ發揮セシムヘシ

茲ニ於テ禁獵區及獵區ヲ設置シ或ハ人工的ニ鳥類ノ保護増殖ヲ圖ルト共ニ更ニ根本的必要條件トシテ民ニ對シ以上ノ知識ヲ涵養スルハ極メテ緊要ナル事トス。

本篇ハ鳥類保護上參考ノ資ニ供セムカ爲ニ編纂シタルモノナリ

德島縣警察部保安課





鳥類ノ保護目次

鳥類ノ保護目次

第一章	鳥類ノ保護目次	一
(一)	鳥ト人	一
(二)	鳥ト害虫	一
(三)	鳥類ノ減少ト害虫	二
(四)	害虫ノ大發生ト鳥	三
(五)	鳥類ト哺乳類	四
(六)	鳥類ト有害植物	四
(七)	鳥類ノ食量	四
(八)	害虫ニ對スル敵鳥	五
第二章	鳥ト水産業	六
(一)	海鳥ト漁業	六
第三章	鳥類ノ利用	七
(一)	鳥肉ノ利用	七
(二)	羽毛ノ利用	七
(三)	鳥糞ノ利用	七

第四章

鳥類ノ保護

文明ノ進歩ニ伴フ鳥類ノ減少

絶滅セル鳥類

王朝時代ノ鳥類保護

徳川時代ノ鳥類保護

現代ノ鳥類保護

附録

巢箱給與ニ依ル鳥類保護

鳥類増殖法

巢箱ノ給與

巢箱ノ製作

巢箱ノ材料及種類

巢箱ノ撰擇

巢箱ノ位置及方向

巢箱ノ高サ

巢箱設置ノ時期

巢箱ト害敵

巢箱設置後ノ注意

(一)(二)(三)(四)(五) A (一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)

B 縣下狩獵ノ大要及鳥獸保護

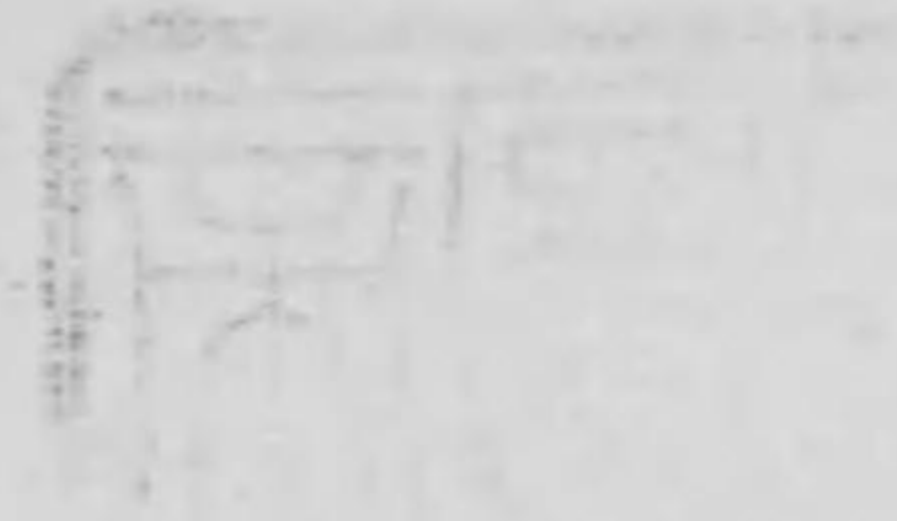
狩獵免許者表

飼養鳥類捕獲表

狩獵鳥獸捕獲表

禁獵區

(一)(二)(三)(四) B



鳥類ノ保護

第一章 鳥類ト農林業

(一) 鳥ト人

鳥類ハ動物ノ中デモ最モ人ノ眼ニ觸レ易イ種類デアルカラ、詩歌、繪畫、傳説等ニ多ク傳ヘラル、ノミナラズ、狩獵ノ關係カラモ亦太古ヨリ人類ト密接ノ關係ヲ持ツテ居ル。即チ狩獵ノ獲物トシテハ吾人ニ娛樂ヲ提供スルト同時ニ其肉、卵等ハ好箇ノ食料ヲ供給シ、或ハ自然ノ風景ヲ一層豊富ナラシメテ居ル。

(二) 鳥ト害虫

鳥ガ農林業上ノ有害動物——主トシテ昆蟲類及ビ小哺乳類ヲ驅除シ、之ニ依ツテ農林産物ヲ増加スルト云フ事ハ誰モ知ツテ居ル事デアアルガ、一般ニハ其効果ガ過少ニ考ヘラレテ居ル様デアアル。一体吾々ハ作物ニ對シ直接ニ害ヲ被ル時ハ非常ニ強ク感ズルガ、然シ、間接ニ其ノ被害ヲ除去シテ與レル作用ニ對シテハ、其ノ利益ノ程度ガ著シクテモ割合ニ感シ方ガ尠ナイモノデアアル。

即チ害ヲ與ヘル方ハ積極的デ、之ヲ除ク方ハ消極的ノ仕事デアアルカラ人ノ注意ニ上ラヌノハ止チ得ナイ次第デアアル。

然シ昆蟲ハ其數頗ル多ク全動物四十万種ノ内三十四万種、即チ全動物ノ約四分ノ三ヲ占メテ居ル。而モ其繁殖ガ強大デアアル。

例ヘバ米國ノアル昆蟲學者ガ蚜蟲ニ就テ計算シタ所ニ依ルト、年十三回單位生殖ヲ營ミ秋季ニ一回有性生殖ヲ營ムカラ、春季一匹ノ蚜虫モ一年ノ終リニ一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇匹トナル勘定デアアル。



即チ順當ニ蚜蟲ガ蕃殖シタラバ一匹ノ蚜蟲カラ出タ仔ダケデモ一年後ニハ殆ソド世界中蚜蟲ダラケニナル筈デアアル。然ルニ平常ニハアル一定數ノ蕃殖ニ限ラレテ居ルノハ主トシテ劇烈ナル生存競争ガ行ハレ外敵ノ爲メ食害セラル、爲デアアル。

昆虫ノ多クハ植物性ノ食物ヲ取り其ノ食量ハ亦莫大ナモノデ一匹一日ニ要スル食量ハ大低其ノ体量ノ二百倍ヲ要ス、從ツテ其ノ農林業上蒙ル被害ノ莫大ナコトハ勿論デアアル。

今我國ニ於ケル昆虫ノ農林業ニ對スル被害ノ程度ヲ見ルニ農林産物ノ約一割位ノ様デアアル。處デ是等ノ蟲害モ決シテ自然ニ放任シテ置イテ起ル被害デハナク種々ノ害蟲驅除ノ施設ヲナシ、多大ノ金ヲ掛ケタ上デ尙ホ蒙ル損害デアアル。

而シテ昆虫ノ外敵トシテハ種々ノ動植物ガアルガ其ノ中デ最モ有力ナモノハ鳥類デアアルコトハ疑フ餘地ノナイ事實デアアル。

(三) 鳥類ノ減少ト害蟲

右ノ様ナ譯デアアルカラ、一度鳥類ガ何カノ原因デ劇減スル時ハ同時ニ害蟲ノ數ガ著シク増加スルノハ見易キ道理デアアル。今二三ノ實例ヲ述ベルト

右ノ例デハ魯普西國王フレ德里ック大王櫻桃ノ實ヲ大變ニ嗜好サレテ居ツタサウデアアルガ、櫻桃ガ著シク雀ノ爲ニ啄マレルノヲ見テ、雀驅除ニ關スル勅令ヲ出シ、雀ノミナラズ數種ノ小鳥ヲ驅逐シ盡レタノデアアルガ、其結果ハドウダツタカト云フニ、毛蟲ヤ其他ノ果樹害虫ノ大發生ヲ促シ、二年ノ後ニハ一地方ノ果樹ハ全部絶滅セントスルニ至ツタ。ソコデ國王ハ勅令ノ非ナルヲ覺リ、今度ハ反對ニ大ニ小鳥ノ保護及ビ輸入ヲ企テテ害虫ノ驅除ニ盡力シ、漸ク其被害ヲ減少シタトノ事デアアル。

又一千八百六十一年ニ佛國ノ農作物ハ凡テ非常ニ減收ヲシタノデアアルガ、之ガ原因研究ノ爲ニ同國農務省ハ諸方面ノ學者ヲ網羅セル委員會ヲ組織シタノデアアルガ、該委員會ノ調査ニヨルト當時佛國デハ獵鳥以外ニ

種々ナル小禽類ヲ捕獲シテ食用ニ供スル風習ガ全國ニ流行シ、爲ニ有益小禽類ガ著シク減少シ其ノ結果、害虫ノ大發生ヲ來シ、之ガ減收ヲ由來シタト云フ事實ヲ發見シテ報告シタ事ガアル。

尙ホ最近ニ次ノ様ナ實例ガアル。元來洪牙利國ハ鳥類保護ノヨク行ハル、所デアアルガ、歐洲戰亂ノ爲同國南部地方ニ於テ肉類暴騰ノ結果、之ガ補充ノ意味デ類ニ今迄捕獲シナカッタ諸種ノ鳥類ヲ食用ニ供シタ所、之ガ爲メ到ル所ニ害虫ノ發生ヲ促シ森林ノ如キハ其ノ葉ヲ全部食害サレ冬枯ノ如キ有様ニナツタ所ガ多イト云フ事ガ報告サレテ居ル。

我國ニ於テモ大正四、五年ニ宇治(山城)茶畑ニ非常ニ尺取虫ガ大發生シテ茶畑ガ喰減ニ歸スル有様ニナツタノデ、害虫驅除ニ關シテハ莫大ナ金ヲ掛ケ驅除シタガ驅除ヲ爲スヨリモ茶畑ヲ全滅ニスル方ガ却テ利益デアアル状態ニ至ツタ所ガ其附近ニ菟道雅郎子尊ノ御墓有リ此ノ附近ノミハ、其ノ被害ヲ受ケテ居ナイノデ調査シテ見ルト、此處ニハ雀ガ多ク御墓ニ棲息シテ居ル爲デアアルコトガ知レタノデアアル。之ガ爲難ヲ放棄シテ之ヲ驅除セシメタルニ好結果ヲ得タト云フコトデアアル。

(四) 害蟲ノ大發生ト鳥

害虫ハ四圍ノ狀況ノ如何ニ依ツテ、時トシテハ一局部ニ非常ニ發生シテ作物ニ大被害ヲ與ヘル事ガアル。斯様ナ際ニハ鳥類ガ集ツテ害虫驅除上一層效果ヲ大ナラシムル、其レハ害虫ノ異常發生ノ場合ニ對スル鳥類ノ適應的作用デアアル。

例ヘバ水田ニ於ケル螟虫、浮塵子、果樹園ニ於ケル尺蠖、森林ニ於ケル榛毛虫ノ如キ著シキモノデアアルガ斯様ナ大發生ノ際ニハ鳥類ハ忽ニシテ其局所ニ集中シ來リ、通常ハ全ク是等ヲ食セサル種類ノモノ迄モ争ツテ之ヲ撲滅セントスル、自然界ノ平衡ハ畢竟斯様ナ作用ニ依ツテ常ニ能ク保持サレテ居ルノデアアル。其ノ最モ著明ナル一例ハ北米合衆國ソルトレーク市ノ例デアアル、一八四七年即チ此地ガ殖民セラレタル翌年飛蝗ノ一大群飛來シ麥作ノ全部ヲ襲撃シ其延長數哩ニ及ビ、沃野忽ニシテ沙漠化セントスルノ慘狀ヲ呈シ

タ、所カ此地ヲ去ル數哩ノ「ソルトレーク」湖ニ棲息スル巨萬ノ鷗群ハ時ヲ移サズ群飛シ來リ數日中ニ全群ヲ啄食シ盡シテ漸ク殖民者ノ饑餓ニ陥ル事ヲ救ヒ得タノデアアル。

五) 鳥類ト哺乳類

哺乳類中農林業上恐ルベキ被害チナスモノハ野鼠ト兎デアアル。之等ノ獸類ハ狩獵法ノ期間保護チ加ヘラレタル猫、狐、狸、貂、鼬等ノ獸類及フクロウ、ミミツク、等ノ鳥類ニ依ツテ驅除セラレテキル、今鳥類ガ野鼠ヲ驅除セル實例ニ依ルト。

一八九〇年夏米國ワシントン町ニ於テ「フクロウ」ガ雛ヲ飼育シ巢立後其ノ巢ヲ調べタ所ガ四五頭ノ鼠ヲ食シテキタ。

亦南米アマゾン河ノ流域ニ野鼠ガ大發生シ多クノ動物集リ驅除チシテキタカ、其ノ主ナルモノハ、コウノトリ、ミミツク、等デアツタ。

六) 鳥類ト有害植物

鳥類ニハ植物性食物ヲ取ル、キマ、ヤマドリ、ウツラ、スヤメ、ノ様ナ鳥ガアル、之等ハ有害植物即チ雜草ノ實ヲ多ク食スル外ニ害虫モ驅除スルノデアアル。米國生物調査局ノ調査ニ依ルト、
 ハーニシア、カロニヤ、ニ於テ一平方哩ニ四羽ノ「ウツラ」ガ棲息シテ一日半オンスノ雜草ノ種子ヲ食シテキル、尙ホ前二洲ニテハ、九月四月ノ間一三四一頓ノ草ノ實ヲ食スト云フ事デアアル。

七) 鳥類ノ食量

以上述ベタ所ニ依ツテ鳥類ハ種々ナ害虫ヲ絶ヘズ撲滅シツ、アル事ガ明ニナツタガ、一休鳥類ハ害虫ヲ如何ナル程度マデ多ク食スルカト云フト、鳥類ハ諸動物中最モ運動ノ活潑ナモノデアアルカラ其ノ食物ノ量モ他ノ動物ニ比シ割合ニ多量デアアル、殊ニ其一定量以外ノ残りタル養分ハ或ル程度迄体内ニ脂肪トシテ蓄積スルコトヲ得ルモノデアアル。

一羽ノ「クワツコウ」ニ依リテ胃中ヲ検査シタルニ次ノ如キ多數ノ昆虫ヲ發見セラレタコトガアル。

ドクガ幼虫	一九五	ドクガ成虫	四三
シロドクガ幼虫	九八	コガネ虫	七〇
キン毛虫	五〇	フランコケムシ	四九
マツケ虫	一八	ノネン幼虫	二六
ノネン蛹	一一	ウメ毛虫	一七三
ツソ毛虫	六三	ハマキ虫	一一〇
ハバチ幼虫	五二	カレハ蛾幼虫	二

亦亞米利加ノ「ウヰド氏」ノ調査セル一例ニ依ルト。氏ハ孵化後十日間ヲ經テ渡リ鷗ノ巢ニ就テ實驗シタノデアアルガ此ノ巢ノ中ニハ三羽ノ雛ガ居ツテ是レニ親鳥ガ類ニ餌ヲ運ビツ、アツタ、第一回ノ觀察ハ午前四時カラ六時迄デ其間ニ餌ヲ運ンダ回数ハ三十回其種類及數ハ、コホロギ一、イモムシ一、蛾一、カガソホ一、コガチムシ一、ミミツク二、甲虫二、バツタ二九、其他不明八、デアツタ、ソレカラ晝頃ニナルニ從ヒ次第ニ回数ヲ減シタガ夫等ヲ平均シテ見ルト一時間十回ノ割合ニナル、而シテ食餌ノ四分ノ三ハバツタデアツテ一回大抵二匹宛運ンダノデアアル。

是等ノ事實カラ考ヘルト此鷗ノ雛一羽ハ一日ニ渺クモ八〇匹ノ昆虫ヲ食ヒ其中六〇匹ハバツタデアアル、處ガ此種類ノバツタ一匹ノ重量ハ平均八厘五毛アル故六〇匹ノ重量ハ五匁強トナル雛一羽ノ重量ハ十二匁ニ過ギナイカラ毎日自己ノ体量ノ約半分ノ食物ヲ食フ譯デアアル。

八) 害虫ニ對スル敵鳥

昆虫類ハ其種類及ビ數ガ非常ニ多ク地球ノ到ル所ニ棲息シテ居ルガ仔細ニ考ヘテ見ルト何處ニモ必ズ之ニ對スル敵鳥ヲ發見スル事ガ出來ル、今一二ノ例ヲ舉ゲテ見ルト

森林ノ害虫 キクヒ虫、セソコウ虫、アブラ虫、クモ虫、シロアリ、等ニ對シテハ
キツツキ、オシウガラ、シマウガラ、アリスイ、キバシリ、ヒタキ、ホトトギス、クワツコウ等ノ敵鳥ガ
アル。

畑ノ害虫 アチ虫、ハリガネ虫、ネキリ虫、ヨタウ虫、カメ虫、ケラ、ハムシ、ハツタ等ニ對シテハ
ヒバリ、ウヅラ、カラス、ホソロ、クロシ、モズ、ヒタキ等ノ敵鳥ガアル。

水田ノ害虫 メイ虫、ウンカ、カガンボ、イナゴ、ミヅアブ、アヲ虫、ツト虫、等ニ對シテハ
ツバメ、ムクドリ、ツグミ、モズ、シギ、クヒナ、バン、サギ、カモ、等ノ敵鳥ガ絶ヘズ驅除シツ、アル。

第一章 鳥ト水産業

一 海鳥ト漁業

海棲ノ鳥類ノ内鵬ナドヲ除キ他ハ餘リ農林業トノ關係ヘナイガ、其代リ漁業上非常ニ有益ナモノデアアル。
鵬、鰲刺、海雀、善知鳥、阿比、水風鳥、ハ鳥ハ保護鳥デアアルガ、是等ハ何レモ常ニ海面ニ浮游セル小魚
ヤ、其他種々ナル動物ヲ食シテ生活シテ居ル、從テ斯様ナ食餌動物ノ群集シテ居ル海上ニ群飛スル性質ガア
ル、斯様ナ所ニハ同時ニ其食餌動物ヲ目懸ケテ鯉、鮪、鯖等ノ如キ大形ノ魚類ガ集ツテ居ル、是等ノ漁類ト
前ノ諸海鳥トハ其群集スル場所ガ一致シテ居ル、夫故漁夫ハ海中ノ漁魚ハ見ヘナクとも、海面ニ飛翔スル海
鳥ニ依ツテ魚ノ在リ家ガ知レル譯デアアル。
尙ホ以上ノ如ク漁魚ト海鳥トガ食餌ヲ追ツテ同一海面ニ集ル事ノ外鰮トカ鯉トカ鯧トノ如キ小形ノ魚ニ
ナルト、是ヲ啄食センガ爲メ海鳥ガ集ツテ來ルカラ此場合ニハ漁鳥ノ關係ハ一層密接デアツテ同ク海鳥ガ
漁夫ノ目標タルハ論ヲ俟タナイ、故ニ海鳥ハ恰モ出漁ノ羅針盤トナルカラシテ各地ノ漁夫ハ一方ナラズ大切
ニ保護ヲ加ヘルノデアアル。

第三章 鳥類ノ利用

一 鳥肉ノ利用

鳥類ヲ食用トシテ利用スル事ハ太古カラ廣ク行ハレテ來タノデアアルガ現今野生鳥類ガ著ク減少シタ結果
其ノ利用ハ次第ニ局限セラレ今デハ比較的整澤ナル食料トシテ中々需要ガアル、其味モ亦家禽ニ無一種ノ香
味ヲ有シテ居ル。

扱テ我國ニ於ケル主ナル食用鳥類トシテハ雁、鴨、雉、鶺鴒、鶉、山鶉、千鳥、鶉、鶩、秧鶉、五位鶩、
鳩、鵪鶉、鶉其他ノ小形渡リ鳥ノ類ナドデアアル。

二 羽毛ノ利用

現今用キル金屬製ノ「ペン」ハ十九世紀ノ初メ頃漸ク發明サレタモノデ、其以前ハ凡テ鳥ノ羽軸ヲ使用シタ
モノデアアル。其他ノ用途ニハ裝飾用、或ハ綿ノ代用品トシテ中々需要ガアル。

裝飾用トシテハ翼ノ羽、尾ノ羽、其ノ他翼羽ダトカ冠羽ダトカ云フ様ナ特別ナ羽毛ガ用キラレ、其用途ハ
主トシテ婦人帽ノ飾デアアル。

綿ノ代用トシテハ主ニ体羽特ニ皮表ニ密生スル綿羽ガ最モ良ク、蒲團、椅子敷等ノ詰物トシテ極適當デア
ル。鳥ノ羽毛ハ植物性ノ綿ヨリハ重量ノ輕キ事、弾力性ニ富ム事、保温力多キ事等ニ於テ優ツテ居ル。

三 鳥糞ノ利用

鶏ノ糞ハ集メテ肥料トシテ利用スル事ハ誰モ知ル所デアアルガ、野生ノ鳥トシテハ海鳥ノ糞ガ最モ多ク利用
セラレル、之ハ海鳥ハ主トシテ魚ヲ食ヒテキルノデ肥料ノ成分ニ富ムデ居ル事ト、今一ツハ一ヶ所ニ非常ニ
多數棲息スル爲、糞ノ採集上便利ガアルカラデアアル。

海鳥糞ハ陸鳥ノ糞ト異ツテ流動体デアアルカラ單ニ海鳥ガ集合棲息シテ居ハト云フ丈デハ好産地トハ云ヘナ

イ、其土地ノ土質ガ鳥糞ヲ吸收スルニ適シ且ツ土地ノ傾斜少ク雨量ノ少イ土地デアレバ海鳥糞中ニ含有サレ
ル窒素モ燐酸モ充分保存サレテ、優良ノ肥料トシテ利用サレルノデアアル

第四章 鳥類ノ保護

(一) 文明ノ進歩ニ伴フ鳥類ノ減少

凡ソ文化ノ進ムニ從ツテ、諸種ノ野生動物ガ漸次其數ヲ減シ、甚シキハ其種類ノ絶滅ニ至ルガ如キハ勢止
ムヲ得ザル所デアアル。然シ斯ノ如キ傾向ガ著シクナレバナル程、吾人ハ野生動物ヲ保護シ保存シテ行ク事ノ
必要ガ起ツテ來ル。甚シキ害ヲスル種類ハ別デアアルガ、別ニ害ナキモノ或ハ輕度ノ害ガアルト云フ位ノ種類
ハ如何ニモシテ其種類ヲ絶滅セシメナイ様ニ之ニ保護ヲ加フル事ハ吾々人類ノ責任デアロフ。況ヤ鳥類ノ如
キ大益アツテ些ノ害ナキ可憐ノ動物ニ對シテハ益々其ノ保護増殖ヲ計ルノ必要ガ認メラル、ノデアアル。

(二) 絶滅セル鳥類

文明ノ進歩ニ伴ツテ、如何ニ鳥類ノ種類ガ減少スルカト云フ事ニ就テ「ウオルター、ロスチャイルド氏」ノ
精細ナ研究發表ニ依ルト今カラ約五百年此方我地球ノ全ク絶滅シテ了ツタ鳥類ガ百四十種類以上モアル
ト云フ。尙委シク云ヘバ其内六十三種類丈ハ骨骸、羽毛、若クハ卵等ガ殘存シテキル。又其他ノ七十七種類
ハ繪畫トカ、剝製標本トカガ保存サレ、之ニ依テ僅ニ其跡ヲ此世ニ止メテ居ルノデアアル。尙ホ以上ノ他殆ド
絶滅ニ近イテ居ル種類ガ七十五種、又現今ノ儘推移スレバ近キ將來ニ於テ絶滅スル處レアル鳥ガ五十一種類
アルト云フコトデアアル。

(三) 王朝時代ノ鳥類保護

鳥類ノ保護ト云フ事ハ、随分古イ時代カラ行ハレテキタノデアアルガ、其目的ハ勿論今ノ様ニ産業保護ノ意
味カラアヘナク、主トシテ次ノ二ツノ動機ニ起因シテ居ル様ニ思ハレル。即チ其一ツハ佛教ノ影響ヲ受ケテ

殺生ヲ禁斷セルコト、尙一ツハ皇室ノ御獵ヲ行ハセラル、地方ニ鳥獸ヲ蕃殖サセル爲メ、一般臣民ノ狩獵
ヲ禁止セルコト。即チ今ノ宮内省ノ御獵場ト同趣旨ノモノデアアル。

(四) 徳川時代ノ鳥類保護

徳川時代ノ鳥類保護ハ主トシテ將軍家ノ御鷹場——御學場トモ云フ、ツマリ將軍ガ御學ノ鷹ヲ以テ狩獵ヲ
スル所ト云フ意味デアアル、又一般ニ禁獵サレテキタ爲御留場トモ云ハレ、鳥類ヲ保護増殖スル爲デアツタ。
將軍家以外ニモ鷹狩ヲ許サレタ三家、三卿、十八國守大名等ノ狩獵地モ各所ニアツテ、其他ノ大名ノ領地デ
モ種々ナル狩獵ノ爲メ禁獵地ガ設ケラレテアツタ。故ニ舊幕時代ニハ全國ニ多數ノ禁獵地ガアツテ其制裁モ
嚴重ナモノデアツタカラ、鳥類蕃殖ノ上ニ非常ニ效果ガアツタ、從ツテ其ノ直接ノ目的ハ狩獵ニアツタトハ
云ヘ間接ニハ産業上非常ニ有益ナモノデアツタニ相違ナイ。

(五) 現代ノ鳥類保護

鳥類保護ノ手段トシテ最モ古クカラ且ツ最モ廣ク世界各國ニ行ハル、モノハ、法律ヲ以テ鳥類ノ捕獲ヲ禁
止セルコトデアアル。

凡ソ鳥類ヲ經濟上ノ見地カラ見ルト、次ノ四ツニ區別スルコトガ出來ル、

- (一) 産業上(農林業、水産業等)ニ有益ナル種類
 - (二) 狩獵ノ目的物トシテ適當ナル種類
 - (三) 農林業上有害ナル種類
 - (四) 著シキ害益ナキ種類
- 法律ヲ以テ鳥類ヲ保護スルニハ、原則トシテハ以上ノ四ツノ區別ニ從ツテ、次ノ如ク取扱ハレル、
- (一) 屬スル鳥類ハ絶對ニ其捕獲ヲ禁止スル
 - (二) 屬スル鳥類ハ絶對ニ其捕獲ヲ禁止スル
 - (三) 屬スル鳥類ハ無論狩獵家ニハ捕獲ヲ許スノデアアルガ、此種ハ兎角濫獲ノ結果減少スル處レガアル

カヲ、蕃殖期間丈ケハ捕獲ヲ禁止スル
(四)ニ屬スル鳥類ハ天然物保存ト云フ意味カラシテ成ルベク其捕獲ヲ禁止スル。尙ホ多少有害ナル種類デモ其數ガ非常ニ少イ場合ニハ、矢張り此意味デ捕獲ヲ禁止スル。

附 錄

A 巢箱給與ニ依ル鳥類保護

一) 鳥類増殖法

鳥類増殖ノ方法ニハ色々ノ手段ガアルガ其ノ中最モ有効ナルモノハ左ノ三通リデアアル。

- (1) 狩獵鳥類ノ人増蕃殖
 - (2) 鳥類保護區ノ設置
 - (3) 有益小禽類ノ人工保護増殖
- (1) 狩獵鳥類ノ人工蕃殖法 ハ主トシテ狩獵鳥類中留鳥類ニ適用セラレルモノデアツテ狩獵鳥トシテ最價値アル雉科ノ種類ニ應用スル場合ガ多イ、我國ニ於テモ此ノ種ノ人工蕃殖ハ昨今多少計劃セラレントスルニ至ツタガ歐米諸國ニ於テハ古クカラ盛ニ實行セラレ其ノ結果遂ニ自然的鳥類ノ分破シテ現今アハ歐米固有ノ松鷄類ノ外亞細亞特産ノ雉類各種ガ至ル所ニ蕃殖シ狩獵家ノ好獵物タル事ハ原産地以上ノ狀況デアアル。
- (2) 鳥類保護區ノ設置 ハ狩獵鳥類ノ何レニモ有効ナルモノデア北米合衆國ニ於ケル鳥類保護政策中最モ成功シタル一ツデアアル。
- 凡ソ鳥ノ中ニハ蕃殖時期ニ一地方ニ群集スル習性ノ種類ガ大分アル鴨水風鳥其他ノ海鳥及鷺ノ類ハ此ノ例デアアル又雁鴨其他ノ渡鳥ニアツテハ渡リノ時期ニ一地方ニ群集スル性質ガアル如キ種類ハ兎角其ノ群棲セル時期ニ狩獵者其他ニ依リ群棲地ヲ襲ハレル故ニ最モ有効ナル禁獵區ヲ設定セムトスルニハ其等ノ地域ハ必ズ蕃殖地ナルカ又ハ鳥類ノ集合地デアアルヲ要スルデアアル如キ地点チ鳥類保護區トシタナラバ效果ノ學ルコトハ勿論デアアル我國ニハ此種ノ保護區ヲ禁獵區トシテ法律ヲ以テ各地ニ設定セラレテ来ル
- (3) 有益小禽類ノ人工保護増殖法 之ハ主トシテ燕雀目ニ屬スル食蟲小禽類ニ應用セラル、方法デアアル、

狩獵鳥類ノ人工蕃殖ハ前述ノ如ク大分前カラ行ハレ多大ノ効果ヲ學ケタルニモ不係有益小禽類ノ人工蕃殖ハ古クカラ多少實行セラレタガ著シイ成績モ學ガラナカッタ、然ルニ十九世紀ニ至リ獨乙ニ於テ初メテ試ミラレタ方法ガ多大ノ成功ヲ收メ其ノ後歐米ニ於テ種々ノ改良ヲ加ヘ現今廣ク各國ニ行ハル、ニ至ッタノデアアル此ノ種ノ保護増殖法ハ今後農林業ノ發達ト相待ツテ益々必要ヲ感ワテ來ルモノト思ハレル。

二 巢箱ノ給與

鳥類ガ蕃殖スル上ニ於テ必要ナル條件ノ内最モ直接ノ關係ヲ持ツテ居ルモノハ鳥類ガ産卵シ育雛スルト云フ事デアアル。

鳥類ノ多クハ此ノ産卵チ行フ前ニ産卵ノ場所タル巢ヲ構成スルノガ普通デアアルガ鳥ニ依ツテハ蛇鳥ヤ火喰鳥ノ如ク全ク巢ヲ營マヌ種類モアリ、又雉ヤ千鳥類ノ如ク名バカリノ巢ヲ形成シテ産卵スル種類モアル、併シ一般ニハ頗ル精巧ナル巢ヲ營ミソレニ産卵スルノガ普通デアアル。

鳥類ガ營巢スルニハ如何ナル場所ヲ選定スルカト云フニ各鳥ノ習性ニ依ツテ幾分差違ハアルガ要スルニ害敵ニ對シテ最モ周到ナル注意ヲ拂ヒ其ノ害ヲ免レ得ル場所ヲ好ムハ勿論其他營巢材料及雛ヲ養フ食物ノ豊富ナル所ヲ探シテ營巢スル物デアアルカラ若シ我々ガ之等ノ鳥類ガ營巢スル上ニ於テ有利ナ状態ニシテヤツタナラバ鳥類ハ喜ンデ營巢シ蕃殖スルト云フ事ハ容易ニ推知スル事ガ出來ル。

一般ニ野生鳥類ハ前述ノ様ニ適當ナ營巢場所ヲ求メル爲メニ多大ノ勞力ト時日トヲ費シテ居ル事ハ少シク野生鳥類ノ生活状態ニ注意シテ居レバ分ル事デアツテ往々營巢場所ノ奪ヒ台ヒヲシテ居ルノヲ目撃スル。樹ノ又ヤ枝上又ハ藪等ニ營巢スル類白ヤ鶯ノ様ナ物ハ樹ノ洞等ニ營巢スル種類ニ比ベテハ營巢場所ノ探求ニ左程勞力ヲ要セヌ様ニモ見ヘルガ、併シ年々林ヤ藪ガ切り開カレテ來ルニ從ツテ漸次營巢スル範圍ガ狭小セラレテ來ルト同時ニ適當ナル場所ヲ求メルニ困難ニナツテ來ル事ハ今更云フ迄モナイ、マシテ空洞ニ營巢スル種類ニアツテハ年々場所ノ狭少ニ苦シメラレテ居ルハ當然ノ事ト思フ。之等ノ空洞ニ營巢スル種類ノ多クハ

椋鳥ヤ四十雀啄木鳥ノ如キ有益ヤ類デアアル故ニ我々ハ斯ル種類ニ對シテハ充分保護ヲ加ヘ其ノ蕃殖ヲ助ケテヤラチバナラヌ之ニハ營巢ニ適當ナル場所ニ巢箱ヲ給與シテヤルコトガ最必要デアアル。

現今外國殊ニ關逸及米國ニ於テハ既ニ此ノ點ニ着眼シテ盛ニ巢箱ヲ設ケ或ハ營巢材料ヲ供給シテ居ルノミナラズ食餌ヲモ與ヘテ其ノ蕃殖ヲ助ケテ居ル。米國其他ノ國ニ於ケル巢箱ノ實驗ノ結果ヲ見ルニ頗ル長成績ヲ擧ケ設ケタ巢箱ノ八割モ有益鳥類ニ依ツテ利用サレテ居ル。我國ニ於テモ先年盛岡高等農林學校デ實驗シタ結果ニ依ルト全体ノ八割ヲ利用サレ其ノ巢箱ヲ利用シタ鳥類ハ四十雀ヤ椋鳥ノ類デ我々ニ有益ナル種類ノミデアツタ。

之ヲ以テ見テモ我々ガ野外ニ巢箱ヲ設ケテ野生ノ有益鳥類ヲ保護スル事ハ決シテ無意義ノ事デハナイト思フ。

三 巢箱ノ製作

野生鳥類ノ巢箱ヲ製作スルニハナルベク一簡單ニシテ容易ニ製作シ得ルト同時ニ(一)鳥ノ嗜好ニ適スルモノヲ造ル事ハ必要デアアルガ又出來ル限り(二)經濟的ニ實行シ得ナケレバナラヌ、

巢箱ノ大小及巢孔ノ大小 巢箱ノ製作ニ當ツテ是非者ヘチバナラヌ事ハ巢箱ノ大イサ及巢孔ノ大小デアアル、一般ニ巢箱ノ大イサハ利用スル鳥ニ依ツテ略々一定シテ居ル、概シテ小型ノ鳥類ハ小型ノ巢箱ヲ好ムモノデアアルツレデ利用サセ様ト思フ鳥ノ種類ニ依ツテ各々巢箱ノ大イサヲ決定スル事ハ製作上決シテ忘レテハナラヌ事デアアル、

次ニ孔デアアルガ之レモ巢箱ヲ利用スル鳥ノ種類ニ密接ノ關係ヲ持ツテ居ル即チ鳥体ノ大小ニ依テ巢孔ニモ各々相違ガアル、之レハ巢箱製作上ニ特ニ注意スル必要ガアル一寸者ヘルト巢孔ノ大キイ巢箱ヲ造ルト大小ノ鳥ガ利用シ得テ便利ナ様デアアルガ然シ孔ガ大キイ時ニハ小型ノ鳥ハ利用シナイ場合ガ多イ若シ大型ノ孔ノ巢箱ヲ小型ノ鳥ガ利用シタトシテモ後カラ來タ大型ノ鳥ニ依ツテ前住者タル小型ノ鳥ガ追ヒ拂ハレテ仕舞フ

場合が多イ例へ箱ノ大イサガ一定シテ居ルトシテモ巢孔ニ大小ノ差等ヲ附ケテ或ル程度迄ハ營巢スル鳥ノ種類ヲ制限スルコトガ出来ル即チ有益鳥類ノミチ集メ様トスル場合ナドニハ特ニ必要ナ事デアアル。

日本ニ於ケル巢箱ノ實驗ノ例ハ甚少ナイ爲メ我國ニ棲息スル鳥類ニ對シテ巢箱及ビ巢孔ノ大小チ一ニ正確ニ記述スル事ハ出来ナイガ米國ニ於テ各鳥ノ種類ニ依ツテ定メテ居ル巢箱巢孔ノ大イサヲ例示シテ見ルト次ノ様デアアル。

出入口ノ直徑		巢箱ノ内徑		鳥名(代表的ノモノ)
一吋八分ノ一(約九分五厘)	四吋	(約三寸四分)	(ミソサザヘ)	四十雀ノ類
一吋四分ノ一(約一寸)	四吋	(同)	五十雀ノ類	コマドリ大ノ類
一吋半乃至一吋八分ノ五(約一寸四分)	五吋	(約四寸二分)	コマドリ大ノ類	キツツキノ類
一吋四分ノ三乃至二吋(約一寸七分)	六吋	(約五寸)	キツツキノ類	キツツキノ類
二吋半(約二寸一分)	七吋	(約五寸九分)	キツツキノ類	キツツキノ類
三吋(約二寸六分)	八吋	(約七寸)	キツツキノ類	キツツキノ類
四吋半(約三寸八分)	十吋乃至十八吋(約八寸五分)	(約八寸五分)	キツツキノ類	キツツキノ類

又各鳥類ニ就テ孔ノ大イサ箱内ノ深サ孔ト底トノ距離巢孔ノ直徑並ニ巢箱ノ地面ヨリノ距離等ノ關係ヲ表示スレバ次ノ様デアアル。

但シ試驗スル場所及種々ノ原因リ依リ其ノ結果ガ一致セヌ場合モアルガ此處ニハ參考トシテ一例ヲ表示シテ置ク

燕ノ類	底	深サ	底ト巢孔トノ距離	巢孔ノ直徑	地面ヨリ
大イサノ	六吋	六吋	一吋一分ノ一	一吋四分ノ三	一吋四分ノ三
ミソサザヘノ類	四吋四分	六吋八	一吋一分	一吋四分ノ三	一吋四分ノ三

燕ノ類	五×五	六	一吋一分	一吋二分ノ一	一吋二分ノ一
アリエノバード	五×五	八	六	一吋二分ノ一	五吋一〇
鷓ノ類	六×六	八	八	一吋二分ノ一	八吋二〇
四十雀ノ類	四×四	八	八	一吋二分ノ一	六吋一五
啄木鳥ノ類	七×七	一六	一六	一吋二分ノ一	六吋二〇
フクロウノ類	八×八	一六	一六	一吋二分ノ一	一〇吋三〇
コノロノ類	八×八	一六	一六	一吋二分ノ一	一〇吋三〇

(四) 巢箱ノ材料及種類

イ) 空罐利用ノ巢箱

「ミルク」ヤ「コーヒー」等ノ空罐ヲ利用サレル、我國デハ巢箱ニ對シテハ未ダ經驗ガ少ナイ爲メ此ノ種ノ實際ニ利用シテ直ニ其結果ヲ擧ゲ得ルカ否ハ問題デアアル

箱箱ヲ造ル板ハ必ズシモ新シイ物ヲ利用スル必要ハナイ舊イ板若シクハ板片レテ集メ或ハ古箱ヲ利用シテ造ツテモ充分間ニ合フノミナラズ鳥ハ反ツテ舊イ板デ造ツタ巢箱ヲ希望スル。惟フニ新シイ板デ造ツタ巢箱ニ對シテハ鳥ガ危險視スルノデアラウガ若シ新シイ板デ造ラテバナラヌ場合ニハ最モ簡單ナ方法トシテハ土ヲ以ツテ其ノ板面ヲコスツテ汚スカサモナク板面ヲ塗ルノデアル色ハ濃綠色ナドノ儘ナ可成境界ト調和シテ目立タヌ色ガヨイ

次ニ使用スル板ハ鉤ヲ掛ケテ滑カコセヌ方ガ良イ若シ板面ガ滑カデアレバ難ク巢立チスル場合ニ巢カラ孔迄上ルニ困難ヲ感ズルコトガアル又親鳥ガ外カフ入ル時ニモ滑カデアレバ足場ガナイ故ニ巢箱ヲ造ル板ハ色々表面ノ儘ノモノヲ使用スルノガ普通デアアル、不得止平滑ナ板ヲ使用スル時ニハ箱ノ内壁ニ凹凸ヲ付ケテ此

ノ缺点ヲ補フナケレバナラヌ。

板ノ厚サニ付テハ別段制限ハナイカ最モ安價ニ且ツ最モ容易ニ得ラレル而モ丈天ナモノヲ選定スレバ良イ箱ノ大小ニモ依ルガ中位ノ巢箱ニハ大底七乃至九分位ノ板ヲ使用スル。

板製ノ巢箱ノ構造ハ設置場所ヲ利用サセ様ト思フ鳥ノ種類ニ依リ或ハ材料ニ依ツテ一定シテ居ラヌ附圖第一圖ノ様ナ種類ガアル此等ノ巢箱ノ設置場所ハ何レモ樹幹ニ或ハ建築物等ニ懸ケテ使用シ或ハ棒ノ先端ニ裝置シテ庭園ノ中ヤ比較的細イ木ノ林等ニ使用スルノデアル。

(ハ) 樹皮ノ附着セル板製ノ巢箱

此ノ種ノ巢箱ハ安價ニ造ル事ガ出來ルノミナラズ實際使用シテモ其ノ結果ガ非常ニ良イ。

材料ハ製材所ノ廢板即チ俗ニ脊板ト稱スルモノヲ求メテ造ル之レハ前述ノ巢箱ト異ツテ外部ヲ塗ル必要ハナイ附圖第二圖ノBハ此ノ類ノ巢箱デ其ノ屋根ニ當ル部分ハ自由ニトリハツス事ガ出來内部ノ状態ヲ見ル様ニナツテ居ル。

松ノ皮付板杉ノ皮付板ヲ使用シテ造リタ巢箱ハ杉林ニ松ノ皮付板ヲ使用シテ造リタル巢箱ハ松林ノ中或ハ之レニ類似セル樹木ノ繁茂セル處ニ設置スルノハ最モ良結果ヲ得易イカラ此ノ点ニ注意ヲ拂フ必要ガアル。

(ニ) 丸太ヲ利用セル巢箱

此ノ巢箱ハ倒レタ樹ヤ内部ノ空洞ニナツテ使用ニ堪ヘナイ様ナ樹ヲ利用シテ作ルノガ最モ經濟的デアル斯ル材料ノナイ時ニハ勿論普通ノ丸太ヲ利用シテ巢箱ヲ作ラバナラヌ此ノ場合ニハ何レモ樹皮ノ附着セルマ、普通ハ丸太ヲ夫々任意ノ長サニ切り更ニ之レヲ縦ニ二ツ割リニシテ然ル後ニ空洞ニスベキ部分ヲ削リ送カ釘ヲ離レヌ様ニ抑ヘルノガ最モ手輕ナ方法デ附圖第二圖B以外ノモノハ即チ之レデアル、特ニ注意ヲ要スルノハ空洞ノ中頃ノ處ニ横ニ階段狀ノ足場ヲ造ツテ雛ノ巢立チニ便利ナ様ニスル必要ガアル。

(ホ) 屋狀形ノ巢箱(巢舎)

之等ハ普通庭園ヤ公園等ニ設ケラレル物デ一種特別ナ形ヲナシテ居ル、此ノ種ノ巢箱ハ比較的人ニ馴レタ鳥類ニ依ツテ利用サレル物デアル。附圖第三圖ノABCハ即チ之レデアル。

(イ) 巢臺

我國デハ古クカラ燕ノ營巢場所トシテ軒ヤ長押ナドニ板片レチ打チツケテヤル事ガ行ハレテ居ルガ之レハ有益鳥類ノ保護上頗ル有効ナ事デアル、此ノ種ノ習慣ハ古來永イ年月ニ亘ツテ行ハレテ來タ爲メニ燕ハ良ク之レニ慣レテ利用スル割合モ頗ル多イ其ノ構造モ裝置モ簡單デアルカラ子供ナドニモ實行シ得ル事デアリ且ツ安價ニ出來ル巢臺ニ種類モ色々ナルガ最モ多ク民間ノ行ハレテ居ルモノハ板ヲ直角ニ作り之ヲ軒先ヤ長押ナドニ打チ付ケテ置ク燕ハ之ニ巢ヲ營ミ育雛スル之レヨリモ更ニ簡單ナル方法ハ五六寸四方ノ板ヲ單ニ打チ付ケル方法デアル。此等ノ巢臺ヲ設置スルニモ其ノ材料ハ新シイ板ヨリモ反ツテ舊イ板ノ方ガ成績ガヨイ。

(五) 巢箱ノ選擇

以上述べタ事ハ巢箱ノ構造並ニ種類ノ大要デアルガ倍テ愈々巢箱ヲ設置スル場合ニハ如何ナル種類ヲ選擇スベキカハ一考ヲ要スル問題デアル巢箱ヤハ設置シテ直ク鳥ガ來テ之レヲ利用スルカト云フニサウ簡單ニハ行カヌ殊ニ現在ノ日本ノ鳥類ハ燕ヲ除イテハ巢箱或ハ巢臺等ニ對シテ全ク無經驗デアカラル例ハ斯ル巢箱ヲ野外ニ澤山設ケタトシテモ鳥類ハ之レヲ危險視シテ容易ニ利用シナイ場合ガ多イ故ニ巢箱ヲ設ケル場合ニハ斯ル點ニ周到ナル注意ヲ拂ハチバナラヌハ勿論其他各地方ニ依ツテ其ノ地ニ蕃殖シツ、アル鳥類ヲ充分調査シテ後巢箱ヲ選擇セチバナラヌ燕ノ様ニ全國至ル所ニ營巢スル種類デハ殆ンド斯カル心配ガナイガ其レデモ尙其ノ地方ニ從來行ハレテ來タ巢臺ヲ給與スル方ガ比較的安全デアル。

右ノ様ナ次第デ一概ニ云フ事ハ甚ダ困難デアルガ大体ニ於テ自然ノ空洞ヲ利用セルモノ皮付板ヲ使用セル巢箱古板ヲ使用セル巢箱等ハ現在ノ我國デ用フルニ最モ適シテ居ル。

(六) 巢箱ノ位置及方向

巢箱ノ位置モ鳥ノ種類ニヨリ夫々適當ニ撰定シナケレバナラヌ。一例ヲ舉レバ椋鳥ノ如キハ地形ノ隆起シタ場所ヨリモ寧ロ稍平坦ナ地ノ實ヲ結ブ樹木ノ繁茂セル地デ而モ一方ニ箱水田ヤ畑等ノ耕作地ニ接近シタ所ヲ好ム果樹園等ハ椋鳥ノ最も好棲スル場所デアアルガ果樹ノ種類ニ依ツテハ此ノ鳥ニ巢箱ヲ給與スル事ヲ考慮セテバナラヌ場合ガアル其外廣イ庭園ナドデ比較的若樹ノアル所ハ此ノ鳥ノ好棲地デアアル、之レニ反シ日雀四十雀ノ如キ鳥ハ常緑樹殊ニ松柏科ノ植物ガ點々散在シテ居ル潤葉樹ノ繁茂セル土地デ樹ハ稍々大キク落葉ガ常ニ樹ノ下ニアリ少シク濕氣ヲ含ンダ幾分薄暗イ樹ノ所ヲ希望スル傾キガアル勿論此等ノ鳥ハ他ノ鳥類ニ比較シテ人ニ慣レ易イカラ植込アル庭園或ハ稍々密ニ植エラレタ果樹園等デモ巢箱ヲ利用シ易イ、要スルニ各々ノ鳥習性ヲ良ク觀察シテソレガ好ム様ナ場所ニ夫々適スル巢箱ヲ設ケテヤル事ハ最も必要ナ事デアアル要スルニ乾濕相半シ適當ノ日光ノ恩澤ヲ受ケル場所デ而モ人通り等ノ少ナイ地ヲ希望スルト同時ニ彼等ノ最も恐ル、猫ヤ蛇其他ノ害敵ノ被害ヲ免レル様ナ場所デアアル事ガ必要デアアル、又如何ニ以上ノ様ナ條件ヲ具備シテ居テモ雛ヲ育テル食物ノ不足ナ地ニハ營巢ヲ好マヌハ勿論デアアルガ併シ營巢ノ場所サハ安全デアレバ求餌ノ爲メニハ可成遠距離ノ所マデ往復スル

七 巢箱ノ高サ

巢箱ノ設置スルニ當ツテ是非考ヘテバナラヌ事ハ地面カラノ高サデアアル若シ巢箱ノ高サガ適當デナカッタナラバ巢箱ノ構造ガイクラ長ク出來テ居テモ鳥ガ利用セヌ、此ノ高サハ勿論各鳥ニ依ツテ異ナルカラ誘致シ様ト思フ鳥ノ種類ニ依ツテ其ノ高サヲ定メテバナラヌ事ニナル。一般ニ云フト平均八呎カラ十二呎迄ノ高サガヨイ、然レ十五尺以上ニナルト結果ガ良クナイ。又鳥ノ種類ニ依ツテハ特ニ高イ位置ヲ希望スルモノガアル例ヘバ啄木鳥ノ様ナ鳥ハ十五呎カラ二十呎以上ノ所ヲ希望スルガ併シ此ノ高サデモ間ニ合ハセルコトガ出ル

來ル、我國ノ四十雀ハ可成リ低イ所ニ巢ヲ作ツテ居ル事ハ往々目撃スル處デアアル。

此ノ高サモ周圍ノ立木等ノ關係ニ依ツテ高低ヲ考ヘテバナラヌ周圍ノ木ガ低イ時ニハ之レニ準テ低クセテバナラヌ普通ノ場合デハ樹ノ丈ノ中程ニ近イ位置ガ良イト思フ。樹ノ幹ニ懸ケル巢箱ニ就テハ殆ンド右ト同様デアアルガ而シ之レハ枝ノ密生セル間ニ裝置スルコトハ長クナイ所謂幹デ枝ノ少ナイ處ニ裝置スル必要ガアルカラ高サニノミ拘泥シテ居ラレヌガ出來得ルダケハ前述ノ高サヲ維持シタイ。

八 巢箱設置ノ時期

巢箱設置ノ時期モ亦鳥類誘致上可成重大ナル關係ヲ持ツテ居ル一般ニ巢箱ハ秋季ニ設置スルノガ最も適當シテ居ルト云フ鳥類ハ冬季氣候ノ寒冷中間ハ棲ル場所ニ困ツテ居ルノデアアルガ巢箱ガ設置シテアルト冬季中此ノ巢箱ヲ棲所トシテ寒風ヤ雨雪ヲ凌イデ居ルツシテ此ノ間ニ鳥類ハ知ラズ、巢箱ニ對シテ親シミヲ生シ遂ニ蕃殖期ニナレバ之レヲ利用シテ巢ヲ營ム様ニナツテ來ル。

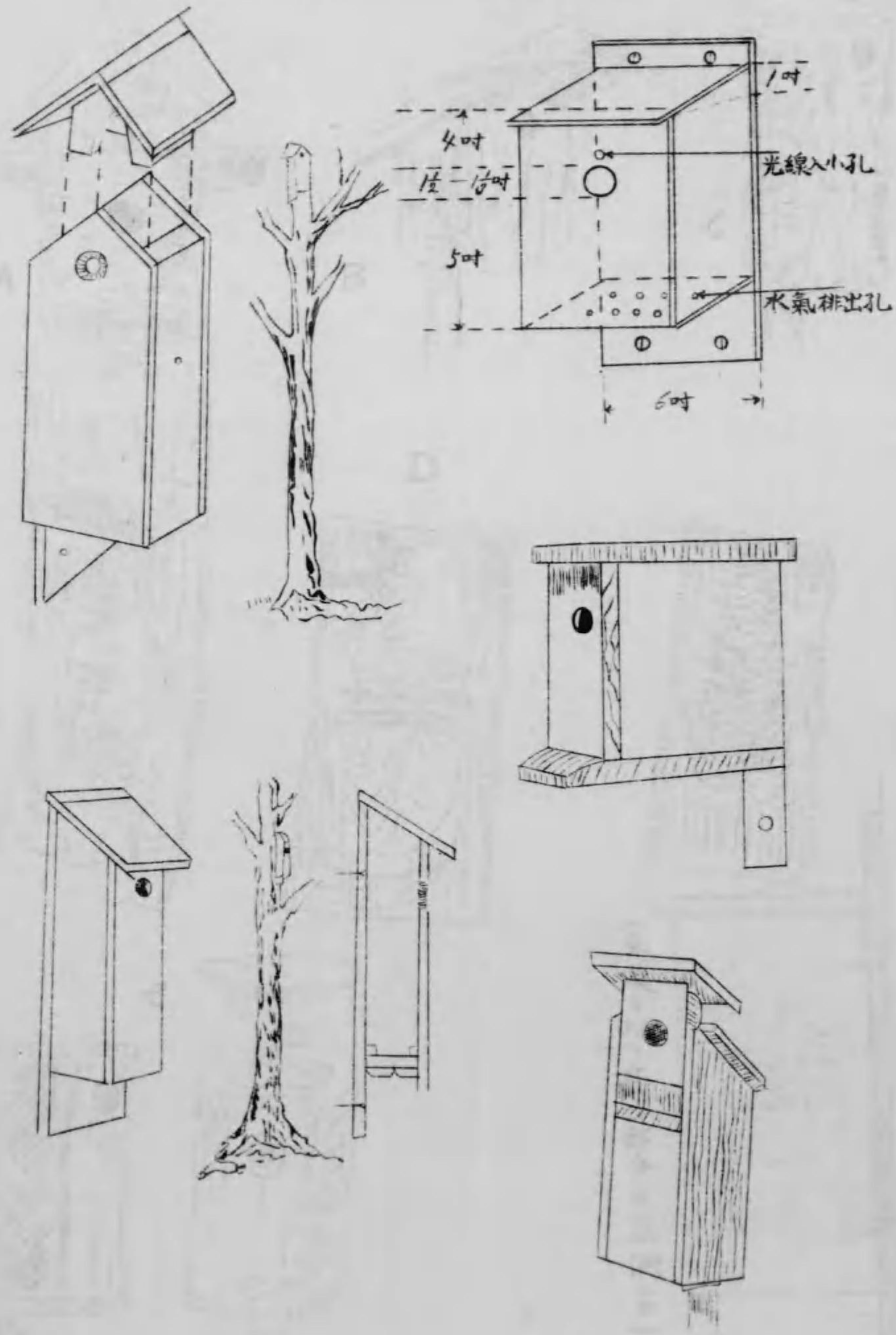
九 巢箱ト害敵

惟フニ鳥類ガ蕃殖スル際ニ最も周到ナル注意ヲ拂フモノハ害敵デアアル故ニ鳥類ハ害敵ノ襲撃ヲ免レムガ爲メニ常ニ安全ナル營巢場所ヲ探シ廻ツテ居ルコトハ蕃殖期ニ入レル鳥類ノ生活狀態ニ少シク注意シテ見レバ直ニ窺知スル事ガ出來ル、巢箱ヲ設置スル場合ニ於テモ巢箱ノ位置ガ害敵ニ襲ハレ易イ様ナ處ニアル時ニハ鳥ハ容易ニ這入ラヌソコデ巢箱ヲ設ケル際ハ特ニ此ノ點ニ注意セテバナラヌ。

十 巢箱設置後ノ注意

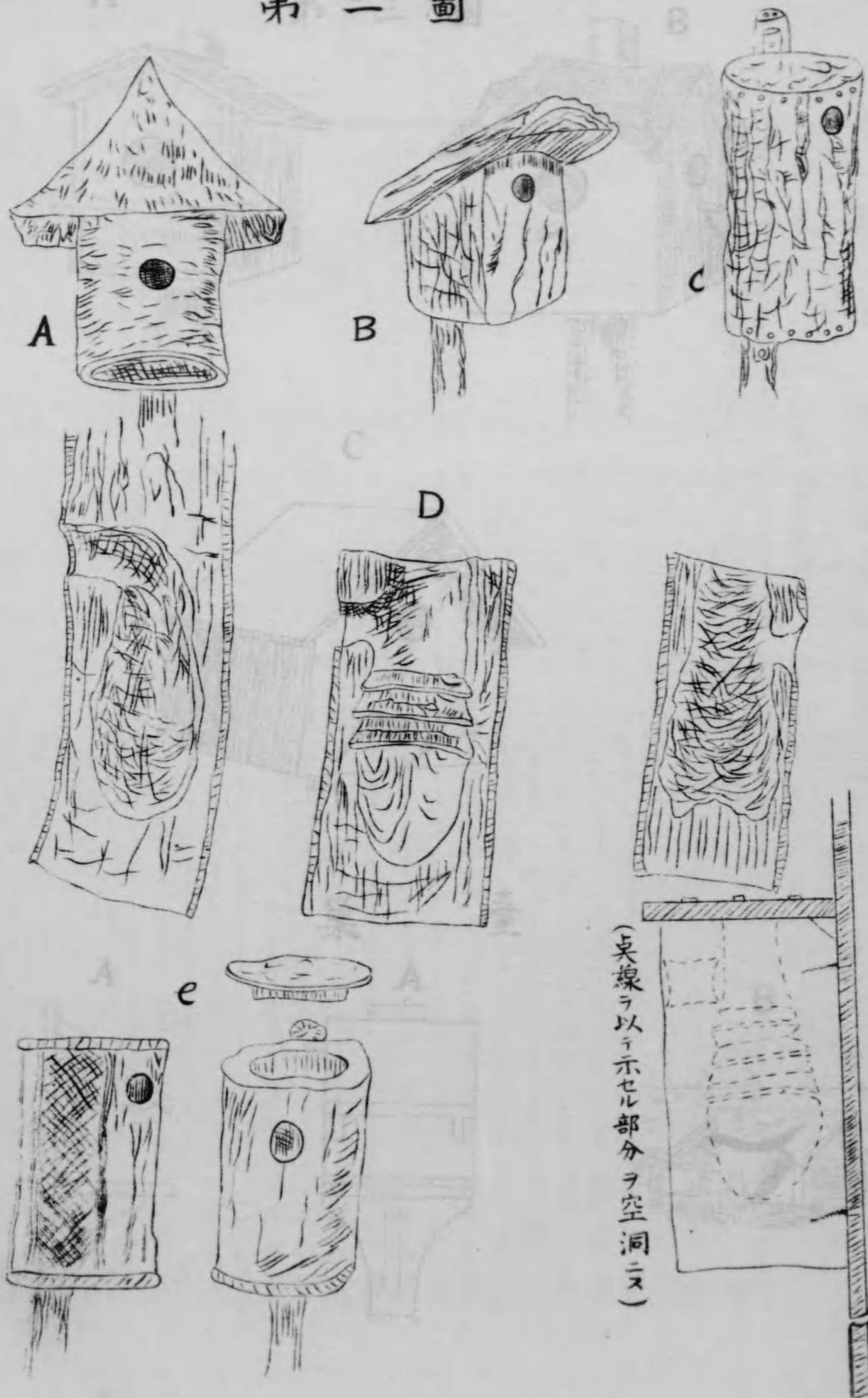
巢箱ヲ設置シタナラバ其ノ後果シテ鳥類ニ利用サレルカ否ヲ良ク注意シ若シ巢箱中鳥類ニ利用サレヌモノガアル場合ニハ其ノ理由ヲ充分考究スル必要ガアル之レハ將來巢箱ヲ設置スル場合ニモ頗ル參考ニナル、ソレテ愈々利用セヌ事モ判リ且ツ其ノ原因モ見當ガ付イタナラバ其ノ巢箱ハ又他ノ場所ニ移動シテ鳥ニ利用サ

第一圖



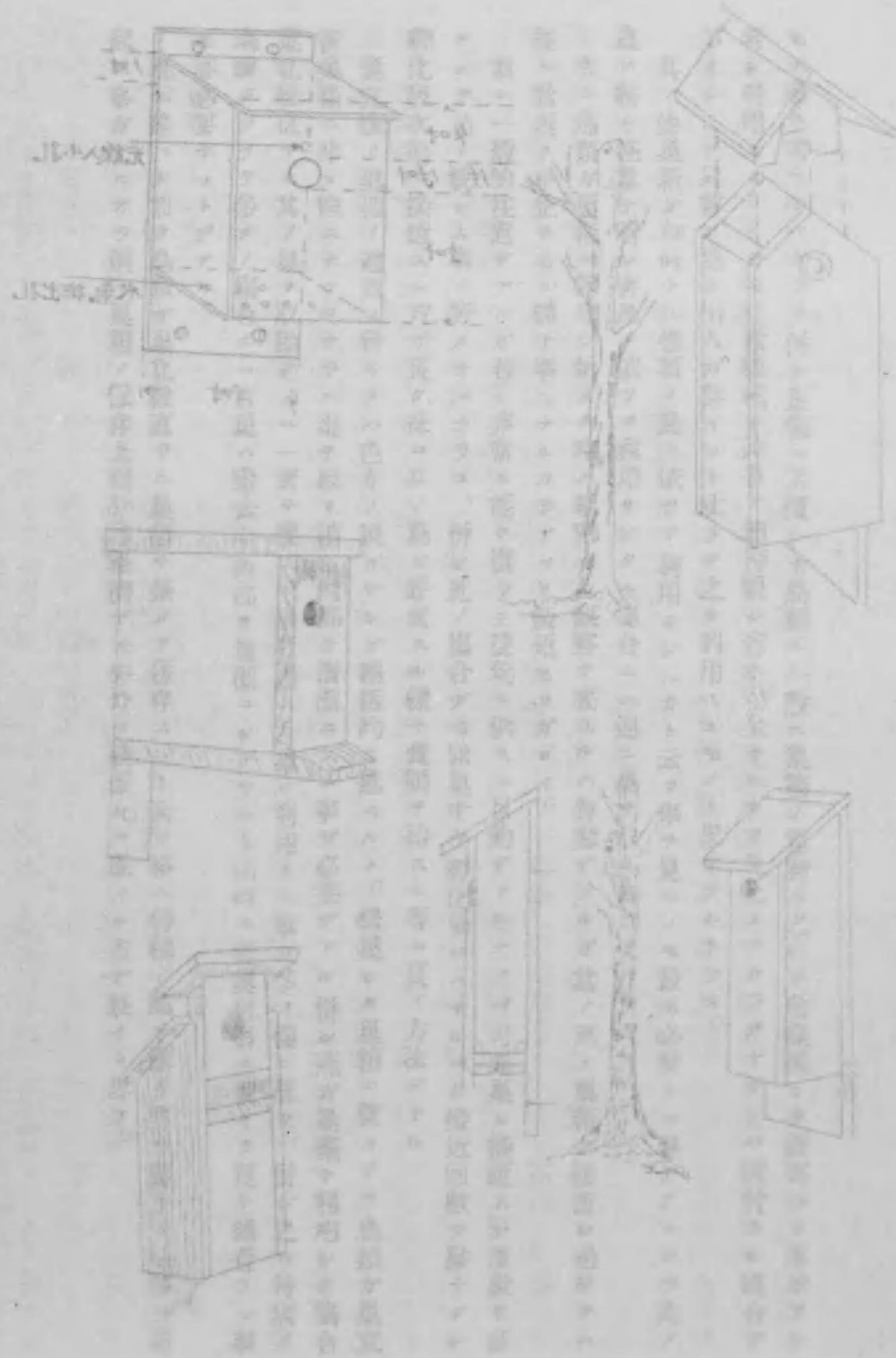
セル事ヲ考ヘテバナラヌ併シ集箱ニ不慣レナ鳥類ハ一般ニ集箱ノ當初ハ之レヲ危険視シテ近寄ラヌ事ガアル
 若シ利用スルニモテモ設置後或ル時日ノ間傍觀シ愈々安全ナルヲツキ止メテカラダナケレバ近付カヨ場合ガ
 多イソレデ只暫ク鳥ノ出入ガ無イコト丈ケデ之ヲ利用セヨモノト思ツテハナラヌ。
 其ノ他集箱ガ如何ナル種類ノ鳥ニ依ツテ利用サレルカト云フ事ヲ見ルノモ最モ必要ナル事デアルカラ此ノ
 点ニ特ニ注意シ若シ害鳥ニ依ツテ利用サレル場合ニハ速ニ集箱ヲ取り去ラテバナラヌ。
 次ニ鳥類ガ集箱ヲ利用シ始メタ時ハ綿密ナル觀察ヲ要スルハ勿論デアアルガ其ノ爲メ集箱ニ接近シ過ギテハ
 遂ニ營巢ヲ中止サセル様ナ事ニナルカラアマリ接近セヨガヨイ。
 右ハ一般的注意デアアルガ若シ非常ニ能ク慣ラシ愛玩ニ供スル目的デアラナラバ可成集箱ニ接近スル度數ヲ多
 クシテ鳥ト親シム事ニ努メテバナラヌ、併シ此ノ場合デモ營巢中ヤ孵化前ニハナルベク接近回數ヲ少ナクシ
 孵化後次第ニ接近スル方ガ良ク殊ニ其ノ鳥ガ好食スル様ナ食餌ヲ給スル等ハ良イ方法デアアル。
 巢立後ノ集箱ノ處置ニ付イテハ色々ノ説ガアルガ總括的ニ述ベルト。營巢シタ集箱ニ就イテハ鳥類ガ巢立
 後集箱ニ來ヌ様ニナツタナラバ集箱ヲ取り箱ノ内部ヲ清潔ニスル事ガ必要デアアル併シ燕ガ巢臺ヲ利用シタ場合
 巢立後直ヤニ其ノ巢ヲ取除クノハ一考ヲ要スル事デ燕ハ古巢ヲ利用スル事ガ多イ様ニ思フ、併シ之ハ特別ノ
 場合デアツテ多クノ場合ニハ古巢ハ除去シ内部ヲ清潔ニシテヤルト同時ニ營巢材料ニ就イテ良ク調査スル事
 モ亦必要ナコトデアアル。
 既ニ述ベタ如ク鳥類ガ巢立後直ヤニ集箱ヲ集メテ保存スルト云フ事ハ特種ノ鳥ヲ除イテハ悪ルイ結果ヲ引
 起ス事ガアルカラ例ヘ集箱ノ保存上幾分不經濟デモ野外ニ裝置シテ置イタ方ガ良イト思フ。

第二圖

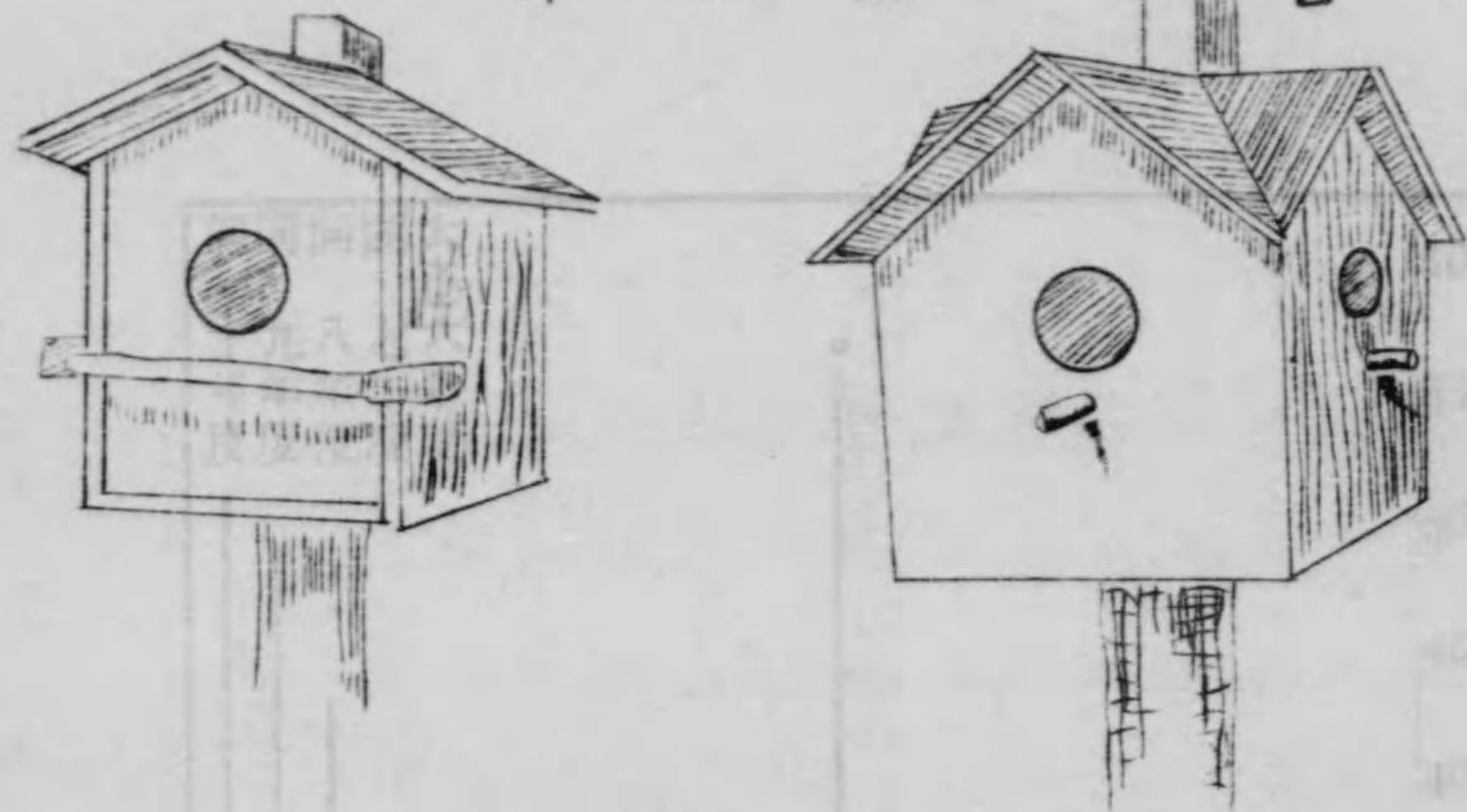


(実線ヲ以テ示セル部分ヲ空洞ニス)

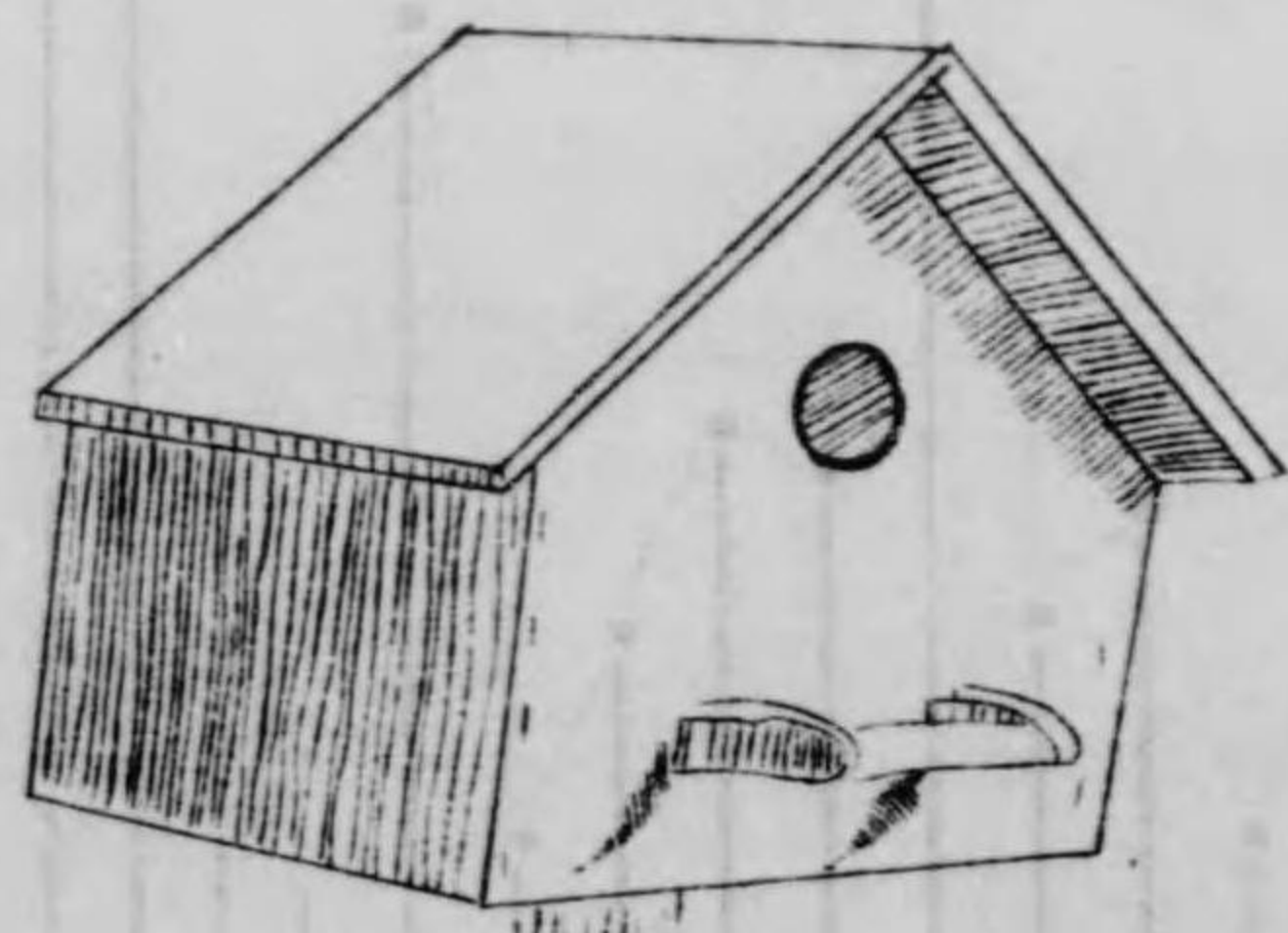
第一圖



第三圖

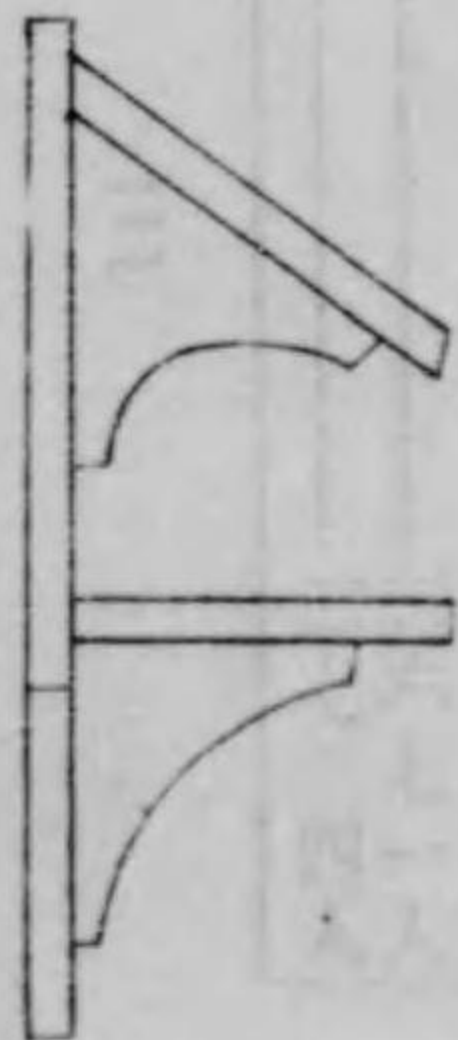


C

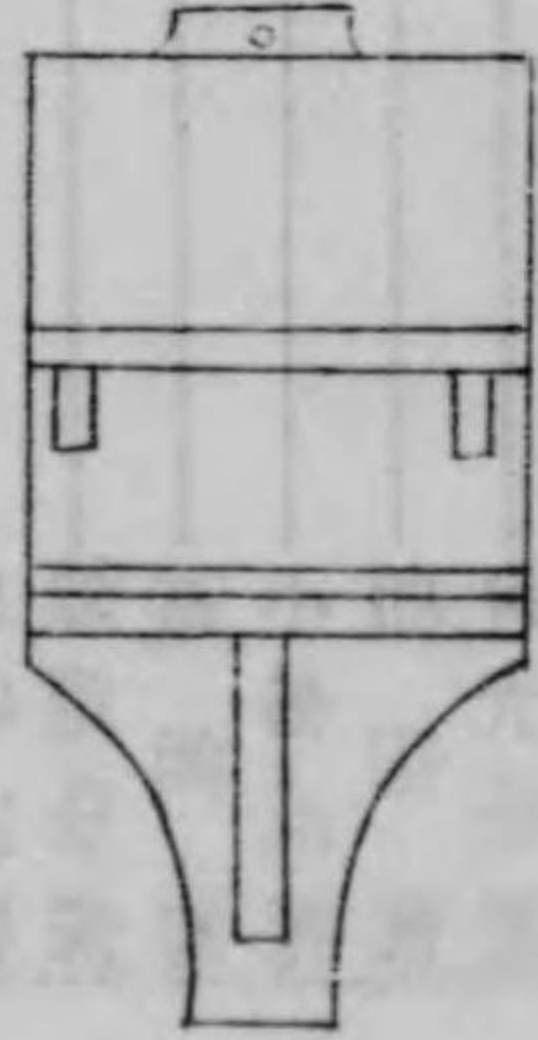


巢臺

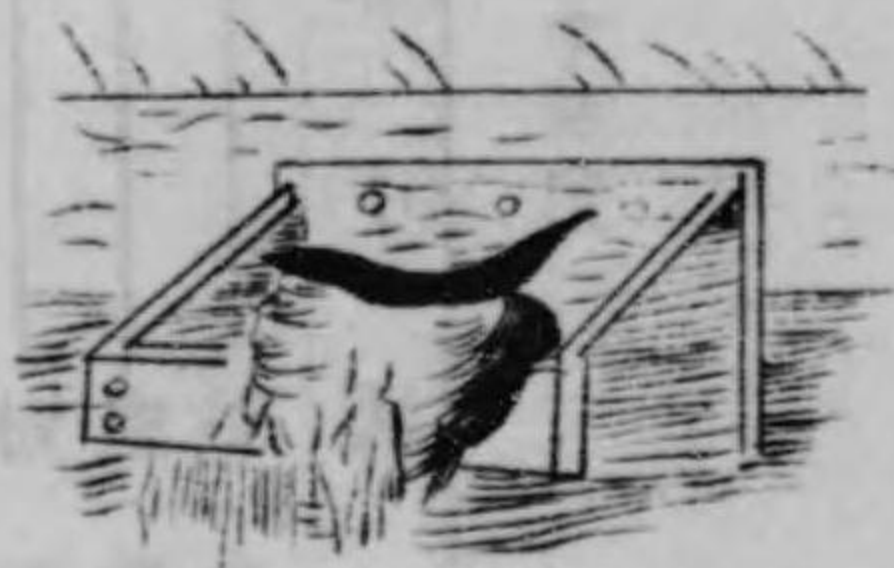
A



A



B



第二圖



B



A



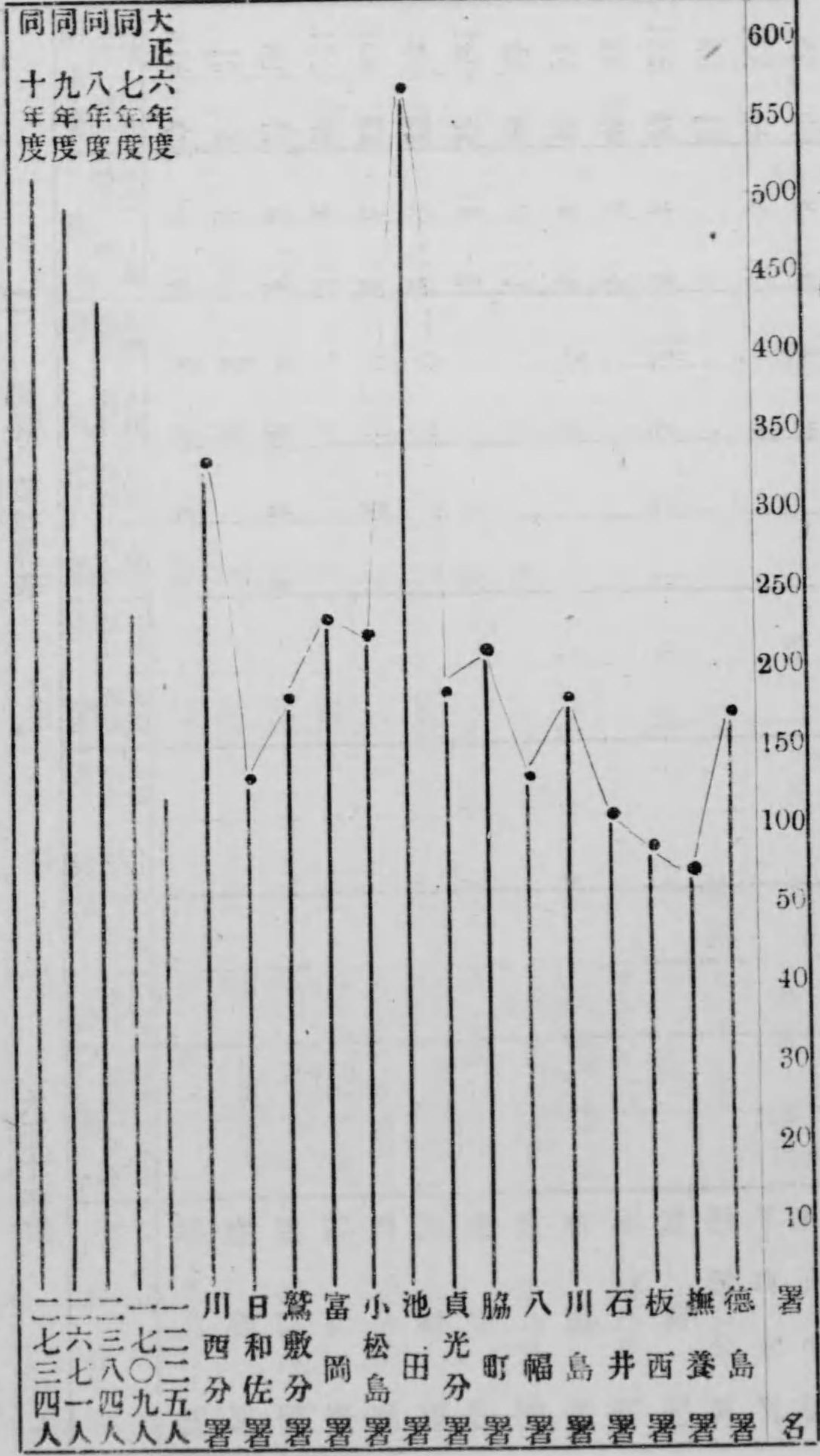
D



9



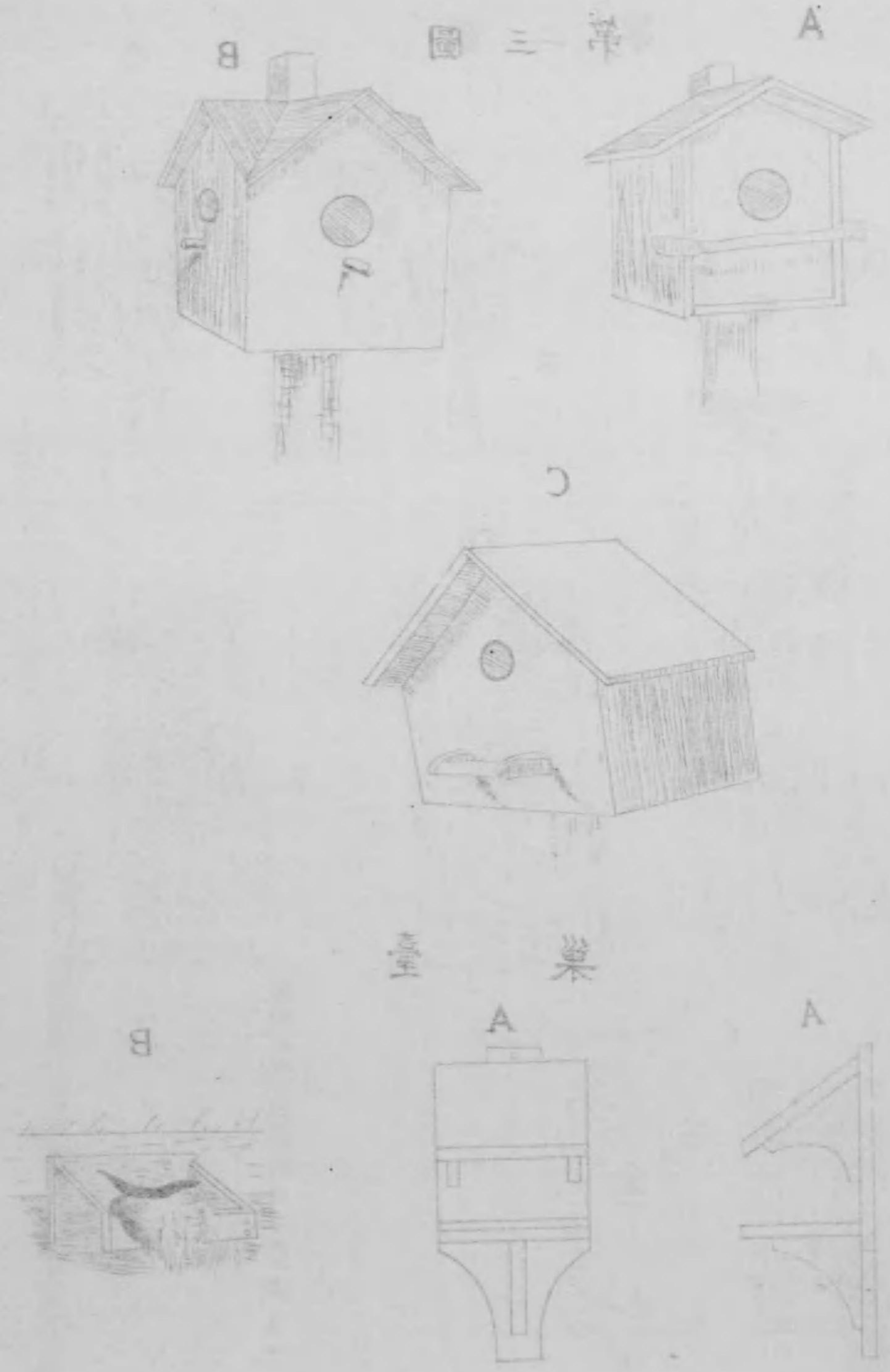
(又巢の以下亦同様のものを二)



附 錄 B 縣下狩獵ノ大要及鳥獸保護

(一) 狩獵免許者表

(大正十年度)



種類	捕獲人員	捕獲頭數
雉	八七 六一 二〇〇 三九 二〇 一七	二〇七
鶴	三 五 一 一	二五二
雉	五三 一 二九 九〇 五	一六五
鹿	一 一 二五 一	五八
猪	一 一 四 一	一九六
狸	二 三 一〇 九 一	二五三
狐	一 一 一 一 一	一四
獵具	銃器	全
獸類	捕獲場所	上八万、木頭、堀江、北灘、伊澤、宮川内、入田、阿野、上分上山、鬼籠野、神領、川田、木屋平、東山、三山、林、大俣、三島、半平山、口山、岩倉、入千代、一字、端山、東祖谷、山城谷、晝間、西祖谷、森、福原、高鋒、棚野、小松島、加茂谷、桑野、福井、橋、管内一團、赤河内、牟岐、奥河内、河部、三岐田、淺川、川上、尖、中下、木頭、奧木頭
署名	德島、撫養、板西、石井、川島、八幡、脇町、貞光、池田、富岡、小松島、富岡、日佐、川分、合計	

(三) 大正十年度狩獵期間中ニ捕獲シタル主ナル鳥獸表

種類	捕獲人員	捕獲頭數
繡眼兒	八二 一〇 三一 一〇一 一〇九 五二 七三 三九 四三 一三七 三〇 一六三 五四 一二一	大〇二四
鶯	一七 二七 六九 九二 二 三 四 六	五〇四
駒鳥	二 三 四 六	二四五
雲雀	九 三 三 四 七	一九七
山雀	一 一 三	一四
雀	三 三 三	七二
留璃	一 一	一
赤髮	一	一
鶉	一	一
署名	德島、撫養、板西、石井、川島、八幡、脇町、貞光、池田、富岡、小松島、富岡、日佐、川分、合計	

(二) 飼養鳥類捕獲表

(大正十年度)

大正十一年三月末現在飼養總數計

(四) 禁獵區

存續期間	區	域	面積	積目
自大正十一年十月一日 至大正十五年九月三十日	板野郡鳴門村一圓及海面		一方里弱	鳥獸保存
自大正十一年一月十五日 至大正廿一年一月十四日	三好郡大步危小步危一圓		百五十二町九段	風致保存
自大正十一年十月十五日 至大正廿一年十月十四日	三好郡三野村大字加茂野宮清水ノ各一部		八町八段八畝三	鳥類保護
自大正十一年十月十五日 至大正廿一年十月十四日	三好郡箸藏村大字州津字藏谷及大佐古ノ一部		百六十町五段四畝十四步	鳥獸保存

大正十一年十二月二十五日印刷
大正十一年十二月二十九日發行

德島縣警察部保安課

德島縣德島市富田浦町字西富田
千四百十六番地ノ一

印刷者 島 正太郎

德島縣德島市富田浦町字西富田
千三百二十四番地ノ一

印刷所 一新印刷部

397
417

終